

《まめ知識》



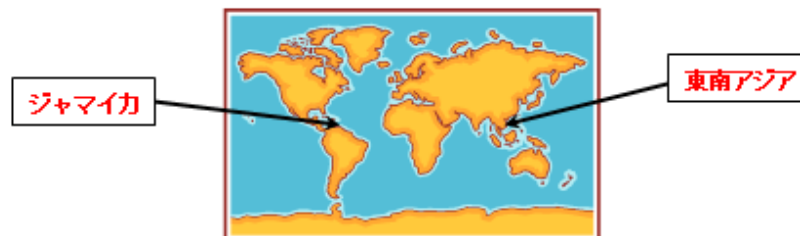
なぜゴムの木は東南アジアに多い？

2008年4月

世界の90%以上の天然ゴムが東南アジアで生産されていますが、ゴムを文明社会に紹介したコロンブスが、初めてゴムを目にした地はジャマイカだったそうです。 どうもゴムの木は、もともと南米のアマゾン流域にしかない植物で、とても貴重なものだったようです。でも、どうしてアマゾン流域にしかなかった植物が、現在東南アジアでこんなに多く生産されるようになったのでしょうか？

それには、イギリスで起こった産業革命が関係しています。1760年代の産業革命以降、どんどん繁栄していったイギリス。1870年頃になると経済力が衰えはじめ、原料を安く入手することを考えはじめました。そこで、当時イギリスが植民地として支配していたスリランカ、シンガポール、マレーシアなどに原料の一つであるゴムの農園を作り、そこでゴムの木を栽培するようになりました。

その後、ゴム栽培は東南アジアの他国にも広がり、今ではインドネシアやタイでも栽培されるようになり、世界の90%以上の天然ゴムが東南アジアで生産されるに至ったのです。



Copyright(c) 2006 OKAYAMA CO., LTD. All Right Reserved



〒113-0034 東京都文京区湯島2丁目32番7号
TEL 03-5688-6700 / FAX 03-5688-6709 [E-MAIL okayama@kk-okayama.co.jp](mailto:okayama@kk-okayama.co.jp)